

令和7管理年度（令和7年7月～令和8年6月）ずわいがに日本海系群B海域 漁獲可能量（TAC）の設定及び配分について（案）

令和7年4月
水産庁

1 TAC（案）

（1）設定の考え方

令和2年度に開催された資源管理方針に関する検討会での取りまとめを踏まえ、資源評価結果及び資源管理基本方針別紙2-19に定める漁獲シナリオにより導かれたABC（生物学的漁獲可能量）をTACとする。

（2）漁獲シナリオの概要等

- ① 加入量当たり親魚量（成熟した雌の資源量をいう。以下この別紙において同じ。）が、漁獲圧力が0の場合の加入量当たり親魚量に対し、30%となる漁獲圧力を上回らないよう、漁獲圧力を調整する。
- ② 当該管理年度の資源量に加入量当たり親魚量が、漁獲圧力が0の場合の加入量当たり親魚量に対し、30%となる漁獲圧力の水準に調整係数（0.8）を乗じた漁獲圧力を乗じる。
- ③ ②によって得られる値をABCとし、TACは当該値を越えない値とする。

（3）令和7管理年度（令和7年7月～令和8年6月）のTAC（案）

特定水産資源	TAC
ずわいがに日本海系群B海域	910トン

（参考1）資源管理の目標

- (1) 目標管理基準値：加入量当たり親魚量が、漁獲圧力が0の場合の加入量当たり親魚量に対し、30%となる漁獲圧力の水準とすることで達成される資源水準の値。
（ずわいがに日本海系群B海域は、現時点では、再生産関係を用いて目標管理基準値や限界管理基準値を示すことはできないため、再生産関係を用いた漁獲シナリオ導入が可能となるまでの数年間は、上記の指標を代替的に用いる。）
- (2) 限界管理基準値：可能な限り早期に手法を開発して設定することとする。

(参考2) ずわいがに日本海系群B海域TACの推移・漁獲実績

単位：トン

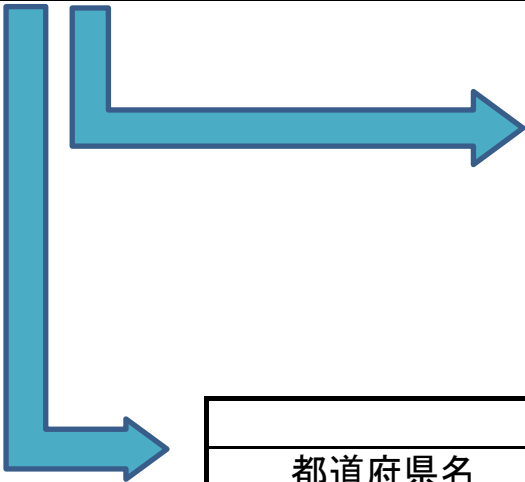
系群（海域）	R7 年 （案）	R6 年 （2024 年）	R5 年 （2023 年）	R4 年 （2022 年）	R3 年 （2021 年）
T A C	910	750	640	500	510
漁獲実績	—	—	251	264	212

2 配分（案）

- （１）過去３か年（令和２年から令和４年まで）の漁獲実績の比率に基づいて、大臣管理区分及び都道府県別に配分する。
- （２）配分量は別紙のとおり。

令和7管理年度ずわいがに日本海系群B海域
漁獲可能量(TAC)の設定及び配分について

特定水産資源	TAC(トン)
ずわいがに日本海系群B海域	910



大臣管理分	
大臣管理区分	数量(トン)
沖合底びき網漁業及び ずわいがに漁業	69

知事管理分		
都道府県名	数量(トン)	注記
秋田県	27	
山形県	128	
新潟県	686	